

えりも町 自然ガイド

襟裳岬周辺は日高山脈襟裳国定公園に指定されています。テントなどの設営や植物の採取はやめましょう。
鳥や動物の大きさは、おおその最大全長・花の名前の下の()は、花の咲く季節を示す

鮮やかな夏の花

- アヤメ (5~6月)
- エゾエンテイカ (6~7月)
- ノハナショウブ (7~8月)
- ハマエンドウ (5~7月)
- エゾスカシユリ (6~8月)
- ハマナス (6~9月)

アポイ岳をのぞむ夕景は美しい
えりもでは、太陽は海から生まれて、海へとかえる

ゼニガタアザラシ

オスは体長約1.8m、体重約180kg
クマやコマイ、アイナメなどの魚を食べる
北海道東部沿岸の数カ所の岩場に一年を通して生息。北海道全体で約900頭が確認され、その内約450頭がえりも岬で暮らしています。

アザラシウオッチングをしよう!

えりも岬では、霧が出ていなければ、望遠鏡(20倍~)を使って一年中アザラシを観察できます。望遠鏡持参なら岬先端の展望台から、持っていない場合は風の館からウオッチングを楽しみましょう。

襟裳岬の岩礁

5~7月ごろはカモメがヒナを育てています。上が3つに尖った大きな岩
その部分にアザラシがよく上陸している

アザラシの体の色は岩とそっくり。波がくると、体をそってかわすので、岩と区別できます。

えりも町

エゾヒグマ (2m)
えりもの山にはヒグマも生息しています。クマよけの対策を行い、ゴミによる餌付けをしないよう心がけましょう。

エゾサンショウウオ (20cm)

エゾヤマザクラ (5月)

エゾシカ (190cm)
えりものシヤクナゲは葉が丸いのが特徴で、「エリモシヤクナゲ」と呼ばれ、葉を鑑賞する

えりもの農場は、観光牧場ではありません。無断で牧場内や柵の中に入ったり、えさを与えないで下さい。

追分峠

歌別川 (オタベツ : 砂・川)
強い潮風で曲がるカシワ

百恋沼

えりも短角牛

えりも風力発電研究所

林業総合センター「みどり館」
緑化事業に関する展示施設

襟裳岬「風の館」
(エンムル: 突き出た頭)

ゼニガタアザラシ生息岩礁

秋のサケウオッチング

秋になると猿留川や歌別川には、たくさんのシロザケが産卵のために戻ってきます。橋の上から魚影を探したり、河口においてウオッチングしてみましょう。

婚姻色のメス (80cm)
婚姻色のオス

早朝、町内の各漁港でサケ定置網漁の水揚げも見ることができます。

黄金道路 (広尾~庶野)

道をつくるのに、道に黄金を敷き詰めるほどの巨費が費やされたことからその名がつけられた

イソヒヨドリ (25.5cm)
覆道やテトラポットの上によくとまっている

シラネアオイ (5~7月)

春の林で咲く花

エゾヤマザクラ (5月)

エゾシカ (190cm)

タチツボスミレ (4~6月)

ニリンソウ (4~6月)

オオバノエンレイソウ (5~6月)

カタクリ (4~5月)

エゾエンゴサク (4~5月)

えりも岬・百人浜の緑化事業

えりも周辺は、かつて、カシワやダケカンバなどの林で覆われていました。しかし、開拓期の伐採などにより、昭和初期に砂漠化し、土壌が海へと流れ、魚やコンブが採れなくなりまし。現在のように緑が戻ってきたのは、昭和28年からの緑化事業によります。しかし、緑化は強風で困難を極め、試行錯誤の末、ゴダ(雑海藻)による「えりも式緑化工法」や、北海道に自生していないクロマツを植えることで成果をあげました。今後はえりも本来の植生に戻していくことが課題です。

えりも町についての問い合わせ先

えりも観光協会 TEL 01466-2-2241
http://www.do-shokoren.or.jp/erimo/
えりも町役場 TEL 01466-2-2111
http://www.town.erimo.hokkaido.jp/
襟裳岬「風の館」 TEL 01466-3-1133
http://www9.ocn.ne.jp/~kaze/

みどころマップ

襟裳岬

襟裳岬は、一年のうち290日以上が風速10メートルを超える日本屈指の強風地帯です。また、岬沖で暖流と寒流がぶつかり合うため、春から夏にかけては濃い海霧に覆われることが多い、気象条件の厳しいところです。夏でも、ウインドブレイカーなどの防寒対策をしましょう。

本町・襟裳
野行動物にえさを与えないで！特にキツネはエサノコックスという寄生虫を媒介するので、触らないようにしましょう。

カタキツネ (120cm)

オオハナウド (5~6月)

襟裳岬灯台
初点：1889.6.25.
光到達距離：42km

風極

襟裳岬「風の館」
館内の望遠カメラでアザラシウォッチング
望遠鏡を持参している人はここでアザラシウォッチング

展望台
望遠鏡を持参している人はここでアザラシウォッチング

長い竿で海底に生えているコンブを手繰り寄せると

えりも町は日高昆布の主要産地。7~10月は船でコンブを採ります。波が高くて船を出せない日や11~6月は、沿岸によったコンブを拾い集めます。

ドライスーツを着て、胸当てをつけてとることも

採ったコンブは、砂利を敷きつめた干場に干します。干場には入らないようにしましょう。

襟裳岬
P
JRバス停 襟裳岬
風の入入口
レストハウス
トイレ
ポスト

カルマン渦がモデルの風の回廊
カルマン渦って…強い風が物に当たったとき、その背後にできる規則的な空気の渦のこと
細い枝など風→〇

平成18年9月、天皇后両陛下が襟裳岬の緑化事業を視察。その思い出を歌に採られたことを記念して建立された御製碑。

鳥倉千代子さんと森進一さんの「襟裳岬」の歌碑

ツリガネニンジン (7~9月)

エゾワフロ (7~8月)

エゾカワナデシコ (6~9月)

オオバンシラガイの骨格の一つ

ウミウ (84cm)

ウミネコ (46.5cm) 足は黄色

オセコロカメ (61cm)

ヒバリ (19cm)

ノビタキ♀ (13cm)

コハマキク (9~10月)

ヒメウ (73cm)

2002年から、1頭のラッコが岬の岩礁で周年観察されています。

日本でラッコが定着しているのは襟裳岬だけ。

ラッコ (155cm)

ゼニガタアザラシ

豊似湖

周囲約2kmのハート形の神秘的な湖
地元では馬蹄湖と呼びます

ここからは未舗装のガタガタ林道
湖まで約9.2km

左側の舗装道路は途中で行き止まり

カワガラス (22cm)
水にもぐって水生昆虫などをとる

アケグサ (23.5cm)

クマガウ (45.5cm)

ミヤマカケス (33cm)

エゾアシサイ (7~8月)
近年、エゾシカの食害にあいエゾアシサイは激減

エゾオオサクラソウ (5~6月)

エゾトリカブト (8~9月)

エゾナキウサギ (16cm)
水河時代からの生き残りといわれ、高山に生息するウサギの仲間(体長15センチ)。湖周囲のガレ場に住み、えりも周辺は道内で最も低地での生息場所となっている。

豊似湖
湖の周りを歩いてみよう！
冬の豊似湖にチャレンジしてみよう！！スキーやカンジキを使って、湖までスノーハイキング。静まりかえった湖は雪と氷で水墨画のよう。湖の真ん中に立って、冬の景色を独り占めてみませんか。

静かに耳をすますと…「チツ」とか「ビツ」といった鋭い鳴き声が聞こえる

大きなマダモツの木
実が突る夏シマリスや鳥が食べに集まる

二ホンザリガニ (17cm)

エゾシマリス (25cm)

オオバユリ (7~8月) 底野 えりも岬

ゴジュウカラ (13cm) 逆さまに木をおりる

目黒

苗畑 トイレ

サケマス孵化場

猿留川

ここが最高！！

サクヤや紅葉の

百人浜周辺

カエデ
いろいろな形・色の葉っぱや木の葉を探そう！

ヤマグワ
サンショウ
コクワ
ダケカンバ

百人浜パークゴルフ場
OPEN 4月中旬~10月末 TEL 01466-4-2169
使用料 町内者 200円・町外者 300円
クラブ&ボールレンタル 300円

百人浜オートキャンプ場
OPEN 4/20~10/20
TEL 01466-4-2168
早起きして鳥の声をきこう！
遊歩道を歩こう！昔、こんな森でおおわれていたんだ

渡りの季節、カモやハクチョウが翼を休める休憩場
悲恋沼
悲恋沼周辺は、小規模ながら湿地性の植物の宝庫。近年、乾燥化が心配されている。

秋
アキグミ (5~6月)

赤い実はおいしい！！

ナワシロイチゴ (5~7月)

ミツガシワ (5~7月)

ハマハタザオ (4~6月)

オオジシギ (30cm)

砂浜は風と砂のアトリエ
砂の上は風が作るいろんな形であふれる
風紋
貝の砂山
砂の輪模様
ガラスの浮き

ハマニガナ (5~9月)

ハマヒルガオ (5~7月)

ハマタマシ (5~7月)

砂浜へ

植林地の展望台 (9:00~17:00開放)

百人浜緑化事業地 (クロマツの植林地)

JRバス停 百人浜

えりも岬 ←

石一宇塔：海難事故で亡くなった人々の霊を慰めるために建立された